[総括コメント]

今村奈良臣（JA-IT 研究会代表委員）

地産地消だけでなく地産都商の路線も加えたい

6 次産業をめぐって気になっていることがいくつかある。

「地産地消」がスローガンになっているが、農村地域、中山間地域では人口が減少し、つくる人がいても買う人がいない。そのため、「地産都商」の考え方も必要になってきている。ＪＡあしきたは都商を考えているが、こうした路線をどう展開するか。

直売所は 1 万 7,000 店舗を越えた（2010 年世界農林業センサスより）。その 82%は生産者個人、生産者グループ、民間企業等がやっているもので、残り 14%が農協、4%が第 3 セクターや地方公共団体。農協の直売所も急激に増えているが、直売所が飽和状態になりつつある。それをどう考えるか。

2009 年くらいまでは、直売所の売上は伸びており、推計で 1 兆円を越えた。そのあとも少しは伸びたが、このところ下り坂だ。直売所はいろいろなタイプが出てきているので、それをどのように整理しながら考えていくか。

都市や都市近郊のスーパーでは、農業生産者の囲い込みが急速に進んでいる。郊外のスーパーに行くと、農業生産者の名前や写真がついた、直売所と同じような姿で野菜を販売している。それを、午後 6 時～7 時になると 3 割引、5 割引で安売りする。消費者はそれを知っていて、その時間になると野菜売り場にどっと来る。東京近郊のスーパーは、ありとあらゆる手を使いすざまじい。

4 ポリス構想で重層的な農村地域づくりを

農村地域について、私は「4 ポリス構想」を提言している。農村は、アグロポリス（農の拠点）、フードポリス（食の拠点）、エコポリス（環境の拠点）、メディコポリス（医療・介護の拠点）の 4 つを揃えないとダメだという考え方だ。

これは、空理空論で言っているわけではない。70 団体が加盟している、広島県の「世羅高原 6 次産業ネットワーク」は、アグロポリスという面では開拓地があり、大規模経営があるかと思えば、集落営農もある。集落営農では水稲や転作だけでなく、野菜をつくり、さらに加工までやっている。

フードポリスの面では、地域の食を提供するレストランや食品製造をやっている、すごい直売所がいくつもある。半年先までのスケジュールをすべて読んでいて、何の弁当をつくるか、きちんとした計画を立てている。

エコポリスということでは、花の観光農園があり、全町農村公園化というプランも持っている。ここは昔からマツタケの産地だったが、山が荒れている。それで牛や羊の放牧をして景観を変えようと提案している。

メディコポリスというのは、医療だけではなく介護も含めて考えること。介護はレベルがたくさんあり、高齢者に毎日弁当を届けることも含まれる。

農業をどうするかというだけでなく、この 4 段重ねにして考えないとダメだ。すべてをいっぺんにやることはできないとしても、こういう農村をつくろうではないか。農協はそのためにある。こうした構想力をお互いに持ちませんか、ということが私の提案だ。

5 つの要素の総合力を持った人材育成を

そのためには人材が必要だ。人材とは、次の 5 つの要素の総合力だと考える。

① 企画力：

簡単にいえば、種をまく前に、売り方、売り先、売り場、売り値、買う人、荷姿を考えること。モノ

ができたから売りましょう、加工しましょうというのではダメだ。営農指導は、ただ肥料のやり方など技術を教えるのではない。組合員の皆さんにどのように企画させるかも指導すべきだ。

②情報力：

受信力と発信力のふたつがあるが、私は受信力を非常に重視している。できるだけいろいろな所へ行って、ノウハウを盗んでくる。そして、それを真似するのではなく、その先を行く。あるいは、自分の所に合った形につくり変えていく。ノウハウを盗むのは簡単ではない。いい酒の 1 升瓶を下げていって、飲ませて聞きだしてくる。そういったことが必要だ。役場や農協の出張で行くのでは出張報告を書いて終わり。そうではなくて、自腹を切って勉強したものは必ず役に立つ。

組合長をどう説得するか、若い連中をどのように組織化していくか、そこに向かわせるエネルギーをどのように組み立てるか、といった本質的なことをやるのが発信力だ。

③技術力：

これにも伝統技術と先端技術のふたつがある。人間が何万年も生きてきた間、ずっと技術の蓄積はあった。それをバカにしてはいけない。高齢者はみんな技能を身につけている。こうした高齢技能者をどのように尊重するか。この伝統技術をどう活かすか。

一方で、先端技術は常に勉強しないといけない。遺伝子組み換えのような、反対せざるをえない技術はある。私は遺伝子組み換え問題の国際的取り決めの委員長をしたので身に沁みてわかっているが、遺伝子組み換えダイズやトウモロコシは絶対つくってはいけない。それはダメだけれど、先端技術は常に勉強する。これは日々進歩しているから、必要だと思うことはやる。

④管理力：

たとえば広辞苑には、「〇〇管理」とつく言葉があるが、初版から 6 版になる間に「安全管理」、「衛生管理」などという言葉が増えた。ではなぜ増えたか、それはどの時代に増えたか。それをきちんと自分で考えられないとダメだ。管理は非常に大事だ。トップに立てば立つほど、管理の意味と重要性がわかる。

⑤組織力：

組織力がなければどうにもならない。これが JA では弱くなってきている。これをどのように強めていくか、どういうやり方で強めていくか。それができるようになると、5 つの要素を頂点にして描いた 5 角形はさらにいい姿になる。

これを機会に、地元に帰ったら「あそこに行けば、おもしろい話が聞ける」と JA-IT 研究会のことを拡げていただきたい。よろしくお願いします。